

青梅市立第三中学校 令和8年度 2学年〔地理〕 年間指導計画案
教科書 帝国書院刊『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』

評価方法(年度)		[知識・技能]・小テスト ・定期テスト ・資料を活用した作業の取り組み [思考・判断・表現]・課題ワークシート・発言・定期テスト・ノート(思考の記録)・提出物(レポート) [主体的に学習に取り組む態度]・発言・定期テスト・ワークシートや作業の取り組み・提出物(レポート)・振り返りシート			
学期	時数	教科書ページ	項目 (◎ 学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
第3部 日本のさまざまな地域					
第1章 地域調査のしかた		場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につける。 (1) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解できる。 (2) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身につける。 (3) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現できる。			
■1章の問い■ 学校周辺の地域にはどのような特色があり、それらを調べるには、どのような方法があるのだろうか。		①地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。 ②対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に調査、考察している。 ③対象地域の特色や課題を主体的に追究しようとしている。			
2 年 1 学 期	1	128 129	1 調査テーマを決めよう ◎学校周辺の地域の調査テーマを決めるときは、どのような視点や手順を意識するとよいのだろうか。	(1) 学校周辺の地域に対して、目頃から感じている疑問や、地図、景観写真、統計資料などを見て気づいた疑問を分類して、調査テーマを決めることができる。	①地図や景観写真、統計資料などを用いて、学校周辺の地域に帯する疑問を出させ、調べる視点や調査テーマを決める手順を理解している。 ②学校周辺の地域に関する疑問をもとにした調査テーマについて、多面的・多角的に考察している。
2 年 1 学 期	2	134 135	2-(1) 調査方法を考えよう -調査方法を考える- ◎調査テーマを追究するためには、どのようなことを、どのような方法で調べればよいのだろうか。	(1) 調査方法と野外調査を組み合わせた計画的な準備を進めることができる。	①調査テーマに対する仮説が正しいかどうかを確かめ、調査項目や調査方法について理解している。 ①調査計画書にまとめる技能を身につけている。 ②調査テーマに対する仮説を検証するためには、どのような調査方法があるかについて、多面的・多角的に考察している。
2 年 1 学 期	3	134 135	2-(2) 調査方法を考えよう -調査するルートを考える- ◎調査テーマを追究するためには、どのようなことを、どのような方法で調べればよいのだろうか。	(1) 野外調査を安全に、効率よく行う方法を考えることができる。	①野外調査を実行するときに必要な持ち物や注意することを理解するとともに、調査するルートを組み立てる、聞き取り調査での質問内容を具体的にまとめるなどの技能を身につけている。 ②調査テーマに関心をもってより有効な調査方法について考え、より適切な調査項目となるように主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学 期	4	136 137	3 野外調査を実行しよう ◎野外観察や聞き取り調査を充実させるためには、どのような点を大切に実施すればよいのだろうか。	(1) 調査ノートを作成し、ルート上の調査や聞き取り調査の結果、景観のスケッチなどを記録することができる。 (2) 実際に野外調査を行うなかで、効率的かつ効果的な調査を考えたが実施することができる。	①仮説を検証するために調査していることを理解している。 ①調査した結果を適切に記録したり、聞き取り調査を行ったりする方法を理解している。 ②実際に野外調査を実行することを通して、効率的かつ効果的な調査とするためにはどうすればよいか、考えている。
2 年 1 学 期		138 139	4-(1) 調査を深めて結果を発表しよう -仮説を検証する- ◎調査した内容を深め、考察した結果を適切にまとめるためには、どのような点を大切にすればよいのだろうか。	(1) 調査のテーマや目的、調査方法、調査結果、結論などについて簡潔にまとめることができる。 (2) 視覚的に分かりやすいようにまとめ、仮説を検証しながら発表の準備をすることができる。	①現地で調査したことや、地図・文献資料などから仮説を検証し、地域の変容やその背景などをとらえ、地域的特色や課題を理解している。 ①調査結果を視覚的に伝わりやすいようレポートなどに適切にまとめるなど、よりよい調査結果のまとめ方を理解している。 ②文献資料などを用いて、野外調査で明らかになった地域的特色や課題を多面的・多角的に考察している。
2 年 1 学 期		138 139	4-(2) 調査を深めて結果を発表しよう -調査結果を発表する- ◎調査した内容を深め、考察した結果を適切にまとめるためには、どのような点を大切にすればよいのだろうか。	(1) 調査のテーマや目的、調査方法、調査結果、結論などについて簡潔に記述し、視覚的に伝わりやすくしたうえで発表することができる。 (2) 聞き手になったときは、発表内容をきちんとメモしながら聞くことができる。	①調査テーマや調査目的、調査方法、調査結果、課題などについて簡潔に記述し、視覚的に伝わりやすく、かつ聞き手に分かりやすく発表する技能を身につけている。 ①発表内容をメモしながら聞くなど、聞き手としての技能も身につけている。 ②調査結果をグラフや地図にまとめ、そこから考察したことを自身の言葉で説明している。 ③調査結果を有効にまとめて発表することに関心をもち、主体的によりよいまとめ方や発表の仕方について追究しようとしている。 ③単元を通した自らの学びに向かう姿について、主体的に振り返ろうとしている。

		<p>「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信の項目」を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。</p> <p>(1) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどをもとに、日本の自然環境に関する特色を理解できる。</p> <p>(2) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などをもとに、日本の人口に関する特色を理解できる。</p> <p>(3) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などをもとに、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解できる。</p> <p>(4) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などをもとに、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を理解できる。</p> <p>(5) 各項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解できる。</p> <p>(6) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地域区分をする技能を身につける。</p> <p>(7) 各項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>(8) 日本の地域的特色を、各項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>(9) 自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目しながら日本の地域的特色について、主体的に追究できる。</p>	<p>①日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。</p> <p>②日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的特色について、主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>第2章 日本の地域的特色</p> <p>■2章の問い■ 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。</p>				
2年1学期	5	<p>140 141</p> <p>1 山がちな日本の地形</p> <p>◎日本の地形には、どのような特徴があるのだろうか。</p>	<p>(1) 日本列島は国土に占める山地の割合が高く、フォッサマグナを境に日本の地形の特徴が東西で異なっていることを理解できる。</p> <p>(2) 日本列島の地形の特徴を、太平洋を取り巻く変動帯との関わりから考察できる。</p>	<p>①日本列島は山地の割合が高く、フォッサマグナを境に日本の地形の特徴が東西で異なっていることを理解している。</p> <p>②日本列島に地震や火山が多い理由を、太平洋を取り巻く変動帯との関わりから考察している。</p>
2年1学期	6	<p>142 143</p> <p>2 川がつくる地形と海岸や海洋の特徴</p> <p>◎日本の平野や海岸、日本を取り巻く海には、どのような特徴があるのだろうか。</p>	<p>(1) 日本は海に囲まれて多様な海岸線が見られることや、日本近海の地形や海流の特徴を理解できる。</p> <p>(2) 川がつくるさまざまな地形の特徴を理解し、どのような土地利用がなされているのか考察できる。</p>	<p>①日本を取り囲む海岸線の特徴と、大陸棚と海溝、暖流と寒流について理解している。</p> <p>②平野や盆地のほか、扇状地や三角州、台地など川がつくる地形の特徴を理解させ、どのような土地利用がなされているのかを考察している。</p>
2年1学期	7	<p>144 145</p> <p>3 日本の気候</p> <p>◎日本各地の気候には、地域ごとにどのような特徴があるのだろうか。</p>	<p>(1) 日本の気候の特徴を、世界の気候帯との関わりから理解できる。</p> <p>(2) 日本の気候を北と南、太平洋側と日本海側、内陸部と沿岸部などの視点から区分し、それぞれの気候区分の特徴を雨温図などから考察できる。</p>	<p>①温帯と亜寒帯(冷帯)に属する日本の気候の特徴を、四季の変化に着目して理解している。</p> <p>②地域により気候が異なる理由を、気候区分図や雨温図などを用いて、地形や緯度、海流、季節風などから多面的・多角的に考察している。</p>
2年1学期	8	<p>146 147</p> <p>4 日本のさまざまな自然災害</p> <p>◎日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのような関わりがあるのだろうか。</p>	<p>(1) 地震や火山による災害の特徴を理解し、日本では地震や火山の災害が多い理由を理解できる。</p> <p>(2) 日本は台風や大雨、冷害、大雪などの気象災害が多い理由を考察できる。</p>	<p>①日本は地震や火山による災害のほか、台風や大雨、冷害、大雪などの気象災害が多いことを理解している。</p> <p>②地震や火山による災害、気象災害が日本で多い理由について、変動帯との関わりや四季が明瞭な気候など、日本の自然環境の特徴から多面的・多角的に考察している。</p>
2年1学期	9	<p>148 149</p> <p>5 自然災害に対する備え</p> <p>◎自然災害からの被害を防いだり減らしたりするために、どのような取り組みが行われているのだろうか。</p>	<p>(1) 自然災害は発生を防げないことに気づき、防災や減災の必要性について理解できる。</p> <p>(2) 国、都道府県、市区町村などによるもののほかに、地域や個人で実施できる災害への対策について考察できる。</p> <p>(3) 自然災害から身を守るために、自身の地域に必要な対策や準備について、主体的に考察、追究する。</p>	<p>①自然災害への備えは、施設や設備による対策(ハード面)と、情報の共有や防災訓練などによる対策(ソフト面)の双方が必要なことを理解している。</p> <p>②災害への対策は、自助、共助、公助の観点から、相互に補充し合って行われなければならないことを考察している。</p> <p>③さまざまな自然災害から身を守るために、生徒が暮らす地域に必要な対策や準備について、主体的に粘り強く考察、追究している。</p>
2年1学期	10	<p>152 153</p> <p>6 日本の人口</p> <p>◎日本の人口分布や人口構成には、どのような特徴があるのだろうか。</p>	<p>(1) 日本の人口分布の特徴と、人口が集中する地域と少ない地域の課題を理解できる。</p> <p>(2) 増え続けてきた日本の人口が減少に転じ、少子高齢化が進んでいる理由を考察できる。</p>	<p>①日本の人口は三大都市圏に集中していることを理解するとともに、人口減少によって地域社会の維持が困難になっている地域が増えていることを理解している。</p> <p>②子育てと仕事の両立が難しいことなどを背景に出生数が減少し少子化が進む一方、食生活の改善や医療技術の進歩などにより寿命が伸びて高齢化が進んだことを、多面的・多角的に考察している。</p>
2年1学期	11	<p>154 155</p> <p>7 日本の資源・エネルギーと電力</p> <p>◎資源を輸入に頼る日本では、持続可能な社会を実現するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。</p>	<p>(1) 日本は資源やエネルギーの自給率が低く、それらを安定して確保できるように取り組んでいることを理解できる。</p> <p>(2) 日本の発電量の内訳が変化してきた理由とその課題を考察できる。</p> <p>(3) これからの日本のよりよい資源・エネルギーや電力供給のあり方について、主体的に追究する。</p>	<p>①日本は資源やエネルギーの自給率が低いことや、持続可能な社会の実現に向けて資源のリサイクルや消費電力の少ない家電製品の開発などを推進していることを理解している。</p> <p>②日本の発電量の内訳において、原子力の割合が低下し火力に依存するようになった理由と、火力に依存することから生じる課題について考察し、表現している。</p> <p>③これからの日本のよりよい資源・エネルギーや電力供給のあり方について、社会情勢を考慮しながら、主体的に粘り強く追究している。</p>
2年1学期	12	<p>158 160</p> <p>8 日本の産業</p> <p>◎日本の産業には、どのような特徴や課題があるのだろうか。</p>	<p>(1) 自然環境や交通網、他地域との関係性など、さまざまな条件を考慮しながら培われた日本の産業の特色を理解できる。</p> <p>(2) 日本の第1次産業、第2次産業、第3次産業それぞれが抱える課題を考察できる。</p>	<p>①日本の産業について、地域でその産業が行われている背景も含めて理解している。</p> <p>②日本の産業の現状や変化について考察し、それぞれの産業が抱える課題について適切に表現している。</p>
2年1学期	13	<p>162 163</p> <p>9 日本の交通網・通信網</p> <p>◎交通網や通信網が発達したことで、地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。</p>	<p>(1) 交通網の発達によって世界と日本の結びつきが強まり、人々の移動が増えていることを理解できる。</p> <p>(2) 交通網や通信網の発達に伴う、利便性の向上と問題点について考察できる。</p>	<p>①航空路線の拡大に伴って出入国者が増加していること、国内では道路網の整備によって自動車の割合が上昇してきたことを理解している。</p> <p>②高速交通網や高速通信網が整備されたことによって生じた、人々の生活における利点や問題点を考察している。</p>
2年1学期	14	<p>164</p> <p>10 日本の地域区分</p> <p>◎いくつかの視点をもとに日本を区分すると、どのような特色がみえてくるのだろうか。</p>	<p>(1) さまざまな視点から地域区分することの目的や利点を理解できる。</p> <p>(2) 主題図をもとに自ら地域区分を行い、そこから読み取れる日本の特色を説明できる。</p>	<p>①方言や食文化など、さまざまな視点から日本を区分することができることと、地域を区分することの目的や利点を理解している。</p> <p>②さまざまな主題図をもとに自ら地域区分を行うとともに、そこから読み取れる日本の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

2 年 1 学 期	14	学習を振り返ろう ■2章の問い■ 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。	(1) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどをもとに、日本の自然環境に関する特色を理解できる。 (2) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などをもとに、日本の人口に関する特色を理解できる。 (3) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などをもとに、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解できる。 (4) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などをもとに、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を理解できる。 (5) 各項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解できる。 (6) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地域区分をすることができる。 (7) 各項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (8) 日本の地域的特色を、各項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (9) 自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目しながら日本の地域的な課題について、主体的に追究できる。	①日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。 ②日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。
	165			

第3章 日本の諸地域					
第1節 九州地方		自然環境を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 (1) 九州地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 九州地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究できる。		①九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特徴を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、それらの課題を理解している。 ②九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結びつき、地域の課題などと有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。	
2 年 1 学 期	15	170 171	1 九州地方の自然環境 ◎九州地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 日本の南西部に位置する九州地方は、南北に長く、火山が多い特徴があることを理解できる。 (2) 九州地方の気候の特徴と、気候に関する自然災害が起こる理由を考察できる。	①火山が多く、リアス海岸やサンゴ礁も見られる九州地方の地形の特徴を理解している。 ②九州地方の気候の特徴を、ほかの地域の都市の雨温図と比較しながら考察している。 ③九州地方で発生しやすい自然災害について、雨温図を活用して考察している。
2 年 1 学 期	16	172 173	2 火山と共にある九州地方の人々の生活 ◎火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 火山と共に暮らす人々の工夫や、噴火への備えについて理解できる。 (2) 火山と人々の生活との関わりや、火山と産業との関わりについて考察できる。	①九州地方の火山や温泉の分布とその関係性について、地図から読み取っている。 ②火山と共に暮らす人々の工夫や、噴火への備えの工夫について理解している。 ③火山が人々の生活や産業にもたらす影響について考察し、表現している。
2 年 1 学 期	17	174 175	3 自然を生かした九州地方の農業 ◎火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして、九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。	(1) シラスの分布と特徴を理解するとともに、シラス台地での農業の特色を理解できる。 (2) 二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を、自然環境に着目し、関連づけて考察・表現できる。	①九州南部の農業の特色について、シラスの分布や特徴との関わりに着目して理解している。 ②九州で盛んな二毛作や促成栽培について、九州の気候に着目して理解している。 ③九州南部と北部で盛んな農業について、自然環境と関連づけて説明している。
2 年 1 学 期	18	176 177	4 都市や産業の発展と自然環境 ◎アジアの国々に近いということが、九州地方の都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 福岡市が発展した背景を、大陸との距離に着目して理解できる。 (2) 北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について、アジアの国々との位置関係に着目して考察できる。	①福岡市や博多湾の位置と大陸との距離に着目して、福岡市が発展した背景を理解している。 ②八幡製鉄所と筑豊炭田の位置に着目して、八幡製鉄所が北九州市につくられた理由を考察している。 ③福岡県における都市や産業の発展について、アジアの国々との位置関係から考察している。
2 年 1 学 期	19	178 179	5 南西諸島の自然と人々の生活や産業 ◎南西諸島の自然環境は、人々の生活・文化や歴史、産業とどのように関わっているのだろうか。	(1) 沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について、位置や結びつきの視点に着目し、理解できる。 (2) 南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を、自然環境の視点に着目して考察できる。	①沖縄が抱える課題について、位置や結びつき、経済の観点に着目して理解している。 ②南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景について、自然環境の特色に着目して考察している。
2 年 1 学 期	20	180 181	学習を振り返ろう ■1節の問い■ 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 九州地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 九州地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究できる。	①九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、それらの課題を理解している。 ②九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結びつき、地域の課題などと有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。
第2節 中国・四国地方		交通や通信を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 (1) 中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 交通や通信を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 中国・四国地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に追究できる。		①地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結びつきの変化と、それに関連する産業や生活の変化や課題について理解している。 ②中国・四国地方の結びつきの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫や努力などと有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に粘り強く追究しようとしている。	
2 年 1 学 期	21	186 187	1 中国・四国地方の自然環境 ◎中国・四国地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 三つの地域の気候の特徴について、中国・四国地方の地形の特徴と関連づけながら理解できる。 (2) 中国・四国地方が三つの地域に分けられる理由について、自然環境の特色をもとに考察できる。	①中国・四国地方の気候に影響を与える山地の位置と名称、その特徴を理解している。 ②中国・四国地方の気候の特徴を、雨温図で示された都市の位置から考察し、山陰・瀬戸内・南四国に分けて表現している。
2 年 1 学 期	22	188 189	2 交通網の整備と人々の生活の変化 ◎本州四国連絡橋や高速道路網の整備は、離島や山間部の人々の生活と他地域との結びつきをどのように変化させたのだろうか。	(1) 本州と四国を結ぶ交通網の変化を理解できる。 (2) 本州と四国を結ぶ三つのルートの開通によって、地域に起きた変化について考察できる。	①本州四国連絡橋の三つのルートの位置と名称、開通による人々の生活の変化を理解している。 ②交通網の整備による、中国・四国地方と他地域との結びつきの変化について考察し、表現している。
2 年 1 学 期	23	190 191	3 瀬戸内海の内海と工業の発展 ◎海運を利用して発達した瀬戸内海に面した地域の工業は、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 瀬戸内の臨海部に工業が発達した経緯を、自然環境や原料・製品輸送の面から理解できる。 (2) 瀬戸内工業地域で、新しい工業製品の開発や生産が進められている理由を考察できる。	①瀬戸内で工業が発達した経緯を、地形の特色や原料・製品の輸送に着目し、理解している。 ②瀬戸内工業地域で新しい工業製品が生産されている理由を、外国との競争などから考察し、説明している。

2 年 1 学 期	24	192 193	4 交通網を生かして発展する農業 ◎温暖瀬戸内や南四国で生産される農産物は、どのようにして競争力を高め、全国へ市場を広げていったのだろうか。	(1) 瀬戸内や南四国で盛んな農業の特色を理解できる。 (2) 瀬戸内や南四国では、どのようにして競争力を高め、全国へ市場を広げていったのかを考察できる。	①気候の特色に関連づけて瀬戸内ではかんきつ類の栽培、南四国では野菜の促成栽培が盛んなことを理解している。 ②輸入品や産地間の競争に対応するため、品種改良を重ねたり輸送方法を工夫したりして市場の拡大を図ってきたことを考察し、表現している。
2 年 1 学 期	25	194 195	5 人々を呼び寄せる地域の取り組み ◎交通網や情報通信技術の整備は、観光産業や人々の暮らしに、どのような変化を生み出したのだろうか。	(1) 中国・四国地方では、自然や史跡・文化財、伝統芸能、漫画などの観光資源を生かした地域おこしが行われていることを理解できる。 (2) 山陰を例に、観光産業をどのように発展させているかを、地域の特色と関連づけて考察できる。	①地域の観光資源を生かした地域おこしの取り組みの特色を理解している。 ②自然や史跡・文化財、伝統芸能、漫画などの観光資源とともに、交通網の整備も生かして観光産業を発展させていることを考察し、表現している。
2 年 1 学 期	26	196 197	学習を振り返ろう ■2節の問い■ 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 交通や通信を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 中国・四国地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に追究できる。	①地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結びつきの変化と、それに関連する産業や生活の変化や課題について理解している。 ②中国・四国地方の結びつきの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫や努力などと有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に粘り強く追究しようとしている。
第3節 近畿地方 ■3節の問い■ 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。			環境保全を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 (1) 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 環境保全を中核とした考察のしかたで取りあげた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 近畿地方での自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みについて、人口増加や産業の発展のなかでどのように行われてきたのかを考察し、表現できる。 (4) 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究できる。	①地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全などの特色ある事象を読み取り、近畿地方の地域的特色を理解している。 ②自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連づけながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の課題を、主体的に追究しようとしている。	
2 年 2 学 期	27	202 203	1 近畿地方の自然環境 ◎近畿地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 近畿地方は地形や気候の特色から、大きく三つの地域に分けられることを理解できる。 (2) 近畿地方では、中部に平野や盆地が広がり、人口が集中していることを理解できる。	①近畿地方の気候の特色を地形との関わりから理解している。 ②近畿地方の気候が北部・南部・中部で異なる理由を、地形の特色から考察している。
2 年 1 学 期	28	204 205	2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 ◎京阪神大都市圏の水源である琵琶湖とその周辺では、水質や環境の保全のために、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。	(1) 琵琶湖と淀川の水質保全が重要である理由を、人口や都市の視点と関連づけて考察できる。 (2) 琵琶湖の水を守る取り組みの歴史的な経緯を理解し、環境保全の大切さに気づくことができる。	①琵琶湖の水質を保全するために、どのような取り組みが必要なのかを考察している。 ②琵琶湖と淀川の水質保全について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学 期	29	206 207	3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み ◎阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた課題をどのように解決しようとしてきたのだろうか。	(1) 阪神工業地帯の臨海部の工業地帯の変容を、環境対策の視点などから理解できる。 (2) 中小企業の高い技術を受け継いでいくための取り組みや、地域住民と共存していくための取り組みについて調べ、課題の解決について考察できる。	①阪神工業地帯の特色について、臨海部の変化を中心に理解している。 ②阪神工業地帯における工業の発展と共に生じた課題の解決について考察し、表現している。
2 年 1 学 期	30	208 209	4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 ◎京都や奈良では、歴史的景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。	(1) 京都や奈良では、歴史的な景観や文化財を保全し、観光資源として生かしていることを理解できる。 (2) 京都や奈良の人々が、歴史的な景観や文化財の保全に取り組んでいる理由を考察できる。	①京都や奈良には、歴史的な景観や多くの文化財を保全し、観光資源として生かしていることを理解している。 ②京都や奈良で、歴史的景観を保全する取り組みが行われている理由を考察している。 ③京都や奈良について、よりよい社会の実現を視野に、歴史的景観を保全するための課題を主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学 期	31	210 211	5 環境に配慮した林業と漁業 ◎近畿地方では、森林の保全や水産資源の保護のために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	(1) 近畿地方の林業や漁業において、環境保全のためにしている取り組みを理解できる。 (2) 近畿地方の林業は、森林管理の技術を受け継ぐ若い後継者が少ないことが課題であることに気づき、どのようなことができるかを考察できる。	①近畿地方の林業や漁業の特色を、資料などを活用して理解している。 ②林業の後継者不足や水産資源の保護を地域の課題としてとらえ、その対策を考察している。
2 年 1 学 期	32	212 213	学習を振り返ろう ■3節の問い■ 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。	(1) 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 環境保全を中核とした考察のしかたで取りあげた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 近畿地方での自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みについて、人口増加や産業の発展のなかでどのように行われてきたのかを考察し、表現できる。 (4) 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究できる。	①地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全などの特色ある事象を読み取り、近畿地方の地域的特色を理解している。 ②自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連づけながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の課題を、主体的に追究しようとしている。

第4節 中部地方		産業を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 ① 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 ② 産業を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 ③ 中部地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ④ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫や努力に関心をもちながら、主体的に追究できる。		①さまざまな資料を活用し、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取ることができるとともに、それぞれの自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。 ②中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業の視点からみた中部地方の特色について、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫や努力に関心をもちながら、主体的に粘り強く追究しようとしている。	
2年1学期	33	220 221	1 中部地方の自然環境 ◎中部地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 中部地方の山脈や、そこから流れる河川がつくる地形の特徴を理解できる。 (2) 中部地方の東海・中央高地・北陸の三つの地域の特徴について、自然環境の面から考察できる。	①日本アルプスの位置と主な河川の名称を確認させ、河川によって形成された地形の特徴を理解している。 ②中部地方の三つの地域の特徴を、地形や気候などの自然環境の特徴と関連づけながら考察し、表現している。
2年1学期	34	222 223	2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 ◎名古屋を中心とする地域では、どのようにして自動車などの輸送機械工業が盛んになったのだろうか。	(1) 名古屋大都市圏の広がりや、交通網によるほかの地域とのつながりについて理解できる。 (2) 中京工業地帯の発展の経緯や、現在の特色について考察できる。	①名古屋大都市圏の形成について、中京工業地帯の位置と広がりや周辺地域との結びつきから理解している。 ②豊田市を中心とした地域で自動車工業が発展した理由を、産業の移り変わりや人々の工夫、周辺地域との結びつきに着目して考察し、表現している。
2年1学期	35	224 225	3 東海で発達するさまざまな産業 ◎東海の産業は、自然環境や交通網などの条件を生かして、どのように発達してきたのだろうか。	(1) 静岡県では豊富な水資源や森林資源を生かした工業や、その技術をもとにして発展した産業が盛んであることを理解できる。 (2) 静岡県で楽器の生産や製紙業が発展した背景を、地域の特徴との関連から考察できる。	①製紙・パルプ工業や施設園芸業が発展した背景を理解している。 ②静岡県で楽器の生産や製紙業が発展した背景を、豊富な水資源や森林資源とその加工技術との関わりから考察し、表現している。
2年1学期	36	226 227	4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり ◎内陸で山あいの環境にある中央高地では、時代の変化に合わせてどのように産業が発展してきたのだろうか。	(1) 中央高地の自然環境を生かした産業と、時代に合った産業の変化を理解できる。 (2) 諏訪盆地の工業の変化について、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展と関連づけて考察できる。	①自然環境の特色や交通網の整備、時代の変化と関連づけて、山梨県と長野県で盛んになった産業を理解している。 ②諏訪盆地の工業の変化を、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展をもとに、その特色と関連づけて考察し、表現している。
2年1学期	37	228 229	5 雪を生かした北陸の産業 ◎雪が多い北陸では、自然環境との関わりのなかで、どのように産業が発達してきたのだろうか。	(1) 北陸では、雪どけ水を稲作や水力発電などに使うことで産業を発展させてきたことを理解できる。 (2) 地場産業が発展した理由を、自然環境の特色や技術の発展などと関連づけて考察できる。	①北陸の農業と地場産業の特色を、自然環境と関連づけて理解している。 ②北陸で地場産業が発展した理由を、地域の歴史的な背景や冬の期間の副業と内職でつちかわれた技術、水力発電による電力などに着目して考察し、表現している。
2年2学期	38	230 231	学習を振り返ろう ■4節の問い■ 中部地方の産業は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 産業を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 中部地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 中部地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫や努力に関心をもちながら、主体的に追究できる。	①さまざまな資料を活用し、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取ることができるとともに、それぞれの自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。 ②中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業の視点からみた中部地方の特色について、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫や努力に関心をもちながら、主体的に粘り強く追究しようとしている。
第5節 関東地方		人口や都市・村落を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 ① 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 ② 人口や都市・村落を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 ③ 関東地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ④ 関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追究できる。		①関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。 ②関東地方に人口が集中する理由を、第3次産業の発達のほか、他地域や海外との結びつき、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に粘り強く追究している。	
2年2学期	39	236 237	1 関東地方の自然環境 ◎関東地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 関東地方の自然環境の特徴を、山地や平野などの地形に着目して理解できる。 (2) 東京大都市圏への人口集中が、都市の気候にどのような影響を与えているか考察できる。	①関東平野は日本最大の平野であること、周囲を山地・山脈に囲まれていること、開発が進み地形が改変されてきたことなど、関東地方の自然環境の特徴を理解している。 ②東京大都市圏への人口集中や人々の生活の変化が都市部の気候に及ぼす影響について考察し、表現している。
2年2学期	40	238 239	2 多くの人が集まる首都、東京 ◎日本の首都であり、多くの人が集まる東京には、どのような特徴があるのだろうか。	(1) 人口が集中する東京は、官庁や大使館、大学、企業、金融機関などの諸機関が立地するほか、全国の交通網や、政治や経済の中心となっていることを理解できる。 (2) 東京の中心部において昼間人口が大きく異なる理由について、さまざまな背景から考察できる。	①東京は、首都として官庁や大使館、大学、企業、金融機関などの諸機関が立地し、政治や経済の中心となっていることや、全国各地と結びつく交通網の中心となっていることを理解している。 ②東京の都心や副都心において昼間人口と夜間人口が大きく異なる理由について、周辺部の機能に着目して考察し、表現している。
2年2学期	41	240 241	3 東京大都市圏の課題と対策 ◎東京への人口集中によって、東京大都市圏ではどのような課題や変化がみられるのだろうか。	(1) 人口の集中と都市圏の拡大によって過密による都市問題が発生し、対策が講じられてきたことを理解できる。 (2) 1970年代につくられたニュータウンが現在抱えている問題と、人口が増加しているニュータウンの取り組みを考察できる。	①住宅地は鉄道路線に沿って開発されたこと、都市圏の拡大によって過密による都市問題が発生し、都市機能の移転や再開発などの対策が進められてきたことを理解している。 ②多摩ニュータウンと港北ニュータウンを事例に、1970年代につくられたニュータウンが現在抱えている問題と、人口が増加しているニュータウンの取り組みを考察し、表現している。

2年2学期	42	242 243	4 工業地域の变化と第3次産業の発達 ◎関東地方における工業や第3次産業の発達は、人口の集中とどのように関係しているのだろうか。	(1) 工場の立地には、工業用地や原料の輸送、製品の輸送などの要因が関わっていることを、東京大都市圏に集中する出版業や石油化学工業を事例に理解できる。 (2) 東京大都市圏で第3次産業が発達している背景を多面的・多角的に考察できる。	①工業や第3次産業について、それぞれどのような場所に立地するかを理解しているとともに、人口の集中や交通網の発達に伴う変化についても理解している。 ②東京大都市圏で工業や第3次産業が発達している背景を、人口増加による都市圏の拡大と交通網の発達を関連づけて考察し、表現している。
2年2学期	43	244 245	5 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題 ◎東京大都市圏の周辺の農業地域や山間部は、人口の多い東京大都市圏と、どのように結びついているのだろうか。	(1) 東京大都市圏からみた周辺の農業地域や山間部の役割について理解できる。 (2) 関東地方の山間部の特色と課題を理解し、高齢化と過疎の解決策について考察できる。	①東京大都市圏の周辺で農業が盛んな理由と、生産されている主な農産物について理解している。 ②山間部の役割と課題、高齢化と過疎の解決に向けて移住者を増やしたり交流人口を増やしたりする方法について考察し、表現している。
2年2学期	44	246 247	学習を振り返ろう ■5節の問い■ 関東地方における人口の集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 人口や都市・村落を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 関東地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追究できる。	①関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。 ②関東地方に人口が集中する理由を、第3次産業の発達のほか、他地域や海外との結びつき、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に粘り強く追究しようとしている。
第6節 東北地方 ■6節の問い■ 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。			生活・文化を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 (1) 東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 生活・文化を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 東北地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に追究できる。	①地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。 ②東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりとはどのように関わっているのか、多面的・多角的に考察している。 ③東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に粘り強く追究しようとしている。	
2年2学期	45	252 253	1 東北地方の自然環境 ◎東北地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 東北地方の地形や気候などの自然環境の特徴を理解できる。 (2) 地形の特徴や、緯度の関係から、東北地方の気候の特徴を考察できる。	①東北地方は南北に長く、大きな河川の流域には広い盆地や平野が形成されていることを理解している。 ②東北地方の南北と東西の気候の特徴について、地形や緯度と関連づけて考察し、表現している。
2年2学期	46	254 255	2 伝統行事と生活や文化の変化 ◎東北地方の伝統的な祭りや行事は、人々の生活とどのように関わってきたのだろうか。	(1) 交通網の整備による、東北地方の祭りや生活の変化を理解できる。 (2) 東北地方の祭りや行事の特色を、自然環境などと関連づけて考察できる。	①東北地方の伝統的な祭りや行事は、農業に由来するものが多いことを理解している。 ②東北地方の伝統行事や人々の生活の変化を、交通網の整備の観点から考察し、表現している。
2年2学期	47	256 257	3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 ◎東北地方の人々は、農業を発展させたり生活を豊かにしたりするために、どのような工夫をしてきたのだろうか。	(1) 東北地方の冷涼な気候に対応した、稲作と畑作の工夫について理解できる。 (2) 東北地方で銘柄米の開発に力を入れてきた理由を、減反政策との関わりから考察できる。	①東北地方で米の生産が盛んな理由を、自然環境や栽培の工夫と関連づけて理解している。 ②東北地方で銘柄米の開発に力を入れてきた理由を、日本の米の消費量の減少に伴う減反政策と産地間の競争から考察し、表現している。
2年2学期	48	258 259	4 水産業と果樹栽培における人々の工夫や努力 ◎東北地方の人々の生活と結びついた水産業や果樹栽培では、どのような取り組みが行われているのだろうか。	(1) 東北地方の水産業や果樹栽培の特色を理解できる。 (2) 東北地方で水産業や果樹栽培が盛んな理由を、自然環境と生産者の工夫から考察できる。	①東北地方で水産業や栽培が盛んな果樹と、その主な生産地を理解している。 ②東北地方で水産業や果樹栽培が盛んな理由を、地形や気候といった自然環境や、生産者の工夫などから考察し、表現している。
2年2学期	49	260 261	5 工業の発展と人々の生活の変化 ◎東北地方の工業や人々の生活は、どのようなことをきっかけに、変化してきたのだろうか。	(1) 交通網の整備に伴ってみられる、東北地方の工業や人々の生活の変化を理解できる。 (2) 東北地方の人々の生活の変化を、工業の変化がもたらした影響と関連づけて考察できる。	①東北地方で工業が盛んな都市の分布や伝統的工芸品の特色と変化について理解している。 ②東北地方における工業の変化がもたらした交通網の整備に着目して、人々の生活の変化について考察し、表現している。
2年2学期	50	262 263	学習を振り返ろう ■6節の問い■ 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 生活・文化を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 東北地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に追究できる。	①地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。 ②東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりとはどのように関わっているのか、多面的・多角的に考察している。 ③東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に粘り強く追究しようとしている。

第7節 北海道地方 ■7節の問い■ 北海道地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。		自然環境を中核とした考察のしかたをもとにして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身につける。 (1) 北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 北海道地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫を主体的に追究できる。	①北海道地方の冷涼な気候の特色を理解するとともに、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。 ②冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結びつきや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連づけて多面的・多角的に考察している。 ③北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫を、主体的に粘り強く追究しようとしている。	
2年3学期	51	1 北海道地方の自然環境 ◎北海道地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。	(1) 日本の北の端に位置し、広大な面積をもつ北海道では、独特な地形や景観がみられることを理解できる。 (2) 亜寒帯に属する寒冷な北海道の気候について、地域によって特徴が異なる理由を考察できる。	①北海道地方の山脈や山地、平野の名称、気候の特徴を、地形や海流の特徴を踏まえて理解している。 ②北海道地方の気候の特徴を三つの地域に分けて考察し、表現している。
2年3学期	52	2 雪と共にある北海道地方の人々の生活 ◎北海道地方の人々は、雪をどのように克服したり、活用したりしているのだろうか。	(1) 北海道地方における、雪に備える工夫や雪を生かした取り組みについて理解できる。 (2) 雪が人々の生活にどのような影響を与えているかについて考察できる。	①北海道地方における、冬の寒さや雪に対する備えや、雪を観光資源やエネルギー源として活用している取り組みについて理解している。 ②雪が人々の生活にどのような影響を与えているかについて考察し、表現している。
2年2学期	53	3 自然環境を克服して発展した畑作や稲作 ◎北海道地方では、厳しい自然環境をどのように克服して、畑作や稲作を発展させてきたのだろうか。	(1) 北海道で畑作や稲作が盛んになった経緯を、開拓の歴史を踏まえて理解できる。 (2) 北海道で取り組まれている土地改良や品種改良の必要性について、自然環境との関わりから考察できる。	①北海道地方の各地で、厳しい自然環境を克服しながらどのように畑作や稲作が広がっていったのかを理解している。 ②十勝平野の畑作と石狩平野の稲作について、それぞれの特色を自然条件や社会条件などと関連づけて考察し、表現している。
2年2学期	54	4 北国の自然が育む酪農や漁業 ◎なぜ北海道地方では酪農や漁業が盛んになったのだろうか。	(1) 北海道で生産が盛んな農産物や漁獲量の多い水産物の実態を理解できる。 (2) 北海道で酪農や漁業が盛んになった理由について、自然環境との関わりから考察できる。	①北海道の生産量が全国の上位を占める主な農産物や水産物を理解している。 ②北海道で酪農や漁業が盛んになった理由を、冷涼な気候や沖合の海流を踏まえて考察し、表現している。
2年2学期	55	5 北国の自然を生かした観光産業 ◎北海道地方の自然環境と観光産業の発展には、どのような関係があるのだろうか。	(1) 北海道では、豊かな自然や新鮮な農水産物などを生かした観光産業が盛んであることを理解できる。 (2) 北海道の観光産業の持続可能な発展に向けて必要なことについて考察できる。	①北海道には魅力的な観光地が多いことと、観光客が増えた理由について理解している。 ②北海道を訪れる外国人旅行者が増加している理由を、北海道の自然環境の特色から考察しているとともに、環境を保全しながら観光産業を発展させるために必要なことについて考察し、表現している。
2年2学期	56	学習を振り返ろう ■7節の問い■ 北海道地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察のしかたで取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 北海道地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4) 北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫を主体的に追究できる。	①北海道地方の冷涼な気候の特色を理解するとともに、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。 ②冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結びつきや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連づけて多面的・多角的に考察している。 ③北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫を、主体的に粘り強く追究しようとしている。
第4部 地域のあり方				
第1章 地域のあり方 ■1章の問い■ 課題を解決し、地域の魅力を生かすまちづくりを行うためには、どのような取り組みが重要なのだろうか。		空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身につける。 (1) 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解できる。 (2) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解できる。 (3) 地域のあり方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこにみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (4) 地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域のあり方について関心をもち、主体的に追究できる。	①解決に向けて考察・構想したことを適切に説明するとともに、地域の実態や課題解決の取り組みについて理解している。 ②地域のあり方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこにみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想している。 ③地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域のあり方について関心をもち、主体的に粘り強く追究しようとしている。	
2年2学期	57	1 追究するテーマを決めよう ◎地球的課題や地域にみられる課題を振り返り、追究するテーマを設定しよう。	(1) 持続可能な地域のあり方を構想するために、地域の地理的な課題を把握し、その解決に向けた追究の主題(テーマ)を設定できる。 (2) 地域のあり方について、課題を主体的に追究、解決するために見通しをもつことができる。	②地域のあり方を考える際に追究する主題を、地理的な見方・考え方や注目する視点を生かしながら設定している。 ③地域のあり方について、課題を主体的に追究、解決するために調整しながら見通しをもとうとしている。
2年2学期	57	2 地域の実態を調査しよう ◎テーマを追究するために、何をどのように調べればよいかを考えて、資料や情報を収集しよう。	(1) 追究するテーマや確かめたいことを整理した調査計画書に沿って地域の実態を調査し、資料を積極的に収集して適切に利用できる。 (2) よりよい社会の実現を視野に、地域の特色や課題などの実態を把握し、主体的に資料を収集できる。	①3部1章「地域調査のしかた」で学習した手順を踏まえて計画を立てるとともに、地域の実態について調査し、得られた資料を効果的に利用する技能を身につけている。 ②よりよい社会の実現を視野に、地域の特色や課題などの実態を把握し、自ら粘り強く資料を収集している。
2年2学期	58	3 地域の魅力と課題を分析・考察しよう ◎収集した資料や情報をもとに地域の魅力と課題を分析し、その要因を考察しよう。	(1) 調査結果を分析し、対象となる地域の魅力と課題の要因を考察できる。	②調査で得られた資料と情報をもとにグラフや主題図にまとめ、対象となる地域の魅力と課題の要因について多面的・多角的に考察し、表現している。

2 年 3 学 期	58	290 291	4 地域の課題の解決策を構想しよう ◎調査したことをもとに、課題の解決と地域の魅力を生かすアイデアを具体的に示そう。	(1) 地域の課題を解決するために必要な取り組みを考え、よりよい地域のあり方を主体的に考察・構想し、議論できる。 (2) 持続可能な社会を目指す一員であるという自覚をもち、持続可能な地域のあり方を主体的に追究できる。	◎地域の課題を解決するために必要な取り組みを多面的・多角的に考察しているとともに、よりよい地域のあり方を主体的に考察・構想し、表現している。 ◎持続可能な社会を目指す一員であるという自覚をもち、持続可能な地域のあり方を主体的に粘り強く追究している。
2 年 3 学 期	58	292 293	5 解決策と魅力を高める提案をしよう ◎課題の解決を図り、地域の魅力を生かすアイデアを分かりやすく他者に提案しよう。	(1) ほかの生徒の発表などを通して、地域の実態におけるさまざまな側面や、それに対する課題解決のための取り組みを理解できる。 (2) 構想の成果を説得力ある伝え方でまとめ、発表や提言などの形で発信できる。 (3) これからの地域のあり方について考察・構想し、学習の成果をもとに、自らの考えを調整しながら主体的に追究できる。	◎ほかの生徒の発表などを通して、地域の実態におけるさまざまな側面や、それに対する課題解決のための取り組みを理解している。 ◎構想の成果を説得力ある伝え方でまとめ、発表や提言などの形で発信している。 ◎これからの地域のあり方について粘り強く考察・構想し、学習の成果をもとに、自らの考えを調整しながら主体的に追究しようとしている。